

学校法人日本大学理事長の業績評価

令和 8 年 6 月 8 日

学校法人日本大学

監 事

1 監事の評価方法について

① 現任監事の体制及び担当分野

現任の監事は本学の元学部長，元事務局長，学外の弁護士及び公認会計士の 4 名であり，担当分野はそれぞれ(1)教学上の管理・運営業務，(2)経営上の管理・運営業務，医事法制，(3)法律分野，(4)経理・財務分野である。

② 理事の業務執行に対する監事監査の実施状況

私立学校法の定めに従い，監事は，理事の業務執行を監査するため，評議員会，理事会，常務理事会，学部長会議等，法人の意思決定に関わる諸会議及び業務執行理事の打ち合わせ（執行部ミーティング），管理系及び教学系の重要な委員会・会議等に原則として全員が出席し，必要に応じて意見表明を行っている。また，監事は，理事長，学長をはじめとする業務執行理事，法人本部所管部署等と随時面談を行っており，ヒアリングを通して業務執行の状況を確認している。

上記のように，監事は日常的に林理事長の言動に接し，理事長の思い，理念，政策そして業務執行を継続的に注視してきた。

③ 林理事長との面談

学校法人日本大学役員規程に基づき，令和 7 年度理事長業績評価に伴う理事長と監事の面談を実施した。

- | | |
|-------|--|
| 1 日 時 | 令和 8 年 5 月 2 6 日(火) 午後 2 時 3 0 分から午後 3 時 3 0 分まで |
| 2 場 所 | 日本大学会館理事長室 |
| 3 出席者 | 林 真理子 理 事 長 |
| | 山本 寛 常勤監事 |
| | 小林 清 常勤監事 |
| | 山本 剛史 学外監事 |
| | 奈尾 光浩 学外監事 |

以上、②及び③の結果を踏まえ、以下のとおり、令和7年7月4日(金)開催の理事会において決定した理事長の評価項目に基づく業績評価を行った。

なお、評価に際しては、「著しい成果が挙がっており、高く評価できる」、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」、「ほぼ計画どおりに進んでいる」、「一部改善の余地がある」、「改善の余地が大きい」の5段階にて評価を行った。

2 理事長の評価項目に基づく業績評価

① 人格が高潔で、学識に優れ、教育、研究及び社会貢献に高い識見を持っているか。

理事長は深い学識と多様な経験・人脈を活かし、卒業生としての熱い思いを持って大学再生と社会貢献に尽力された。また、多様な背景を持つ執行部の議論を冷静にリードして適切な結論を導き、改革の成果が着実に表れている。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

② 学問の自由を尊重し、法令を遵守して、透明性の高い学校法人の経営を行い、財務基盤の充実と適切な資源配分によって、事業の活性化に努めているか。

教学面の改善、組織風土の改革、コンプライアンス意識の向上、病院の収支改善といった重大な課題を総合的に判断し、一定の成果が見られた。特に今年度は従来から問題視されていた校友会準会員からの会費徴収制度を廃止するといった大きな決断を行った。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

③ 日本大学の教育理念（自主創造）の価値を実現するために、明確なビジョンと戦略を持ち、熱い情熱、強い指導力、優れた会話力をもって学校法人の経営を行っているか。

理事長は、本学の教育理念を体現し、母校愛と優れた会話力を持ち、常に「学生ファースト」を念頭に学校法人経営に尽力し、明確なビジョンと戦略の形成に取り組んでいる。

その成果として自主創造の理念を持った人材を広く社会に送り出すことにより社会に貢献している。

以上のことから本項目については、「ほぼ計画どおりに進んでいる」と判定する。

- ④ 旧体制による様々な社会的信用の失墜を回復すべく、学生・生徒等と、保護者及び教職員が誇りを持てる学校法人を目指した改革に尽力しているか。

旧体制に起因する失墜した信用の回復に向け、改革の推進と積極的な広報活動に尽力した。その結果、私立大学等経常費補助金の交付再開、志願者数の増加など、顕著な成果を収めるに至った。また、旧体制関係者に対する厳正な処置や、改善改革推進会議を中心とした継続的な組織変革に取り組んでいる。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

- ⑤ グローバル社会の中で、多様性（ダイバーシティ）と公正性（エクイティ）を尊重した人材育成と人材登用を実施しているか。

本学初の女性理事長としてダイバーシティを強力に推進し、女性の役員登用や女性教員ネットワークの構築、障がい者支援シンポジウムの開催等各種支援策を実施し、法人内外にメッセージを発信している。一方で、管理職における女性割合の増加は道半ばであるが、将来における多様性の確保に必要な布石を打っている。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

- ⑥ 学長との信頼・協力関係を強化し、学校の管理運営に優れた手腕を発揮し、組織強靱化を目指した改革を積極的に実施しているか。

学長との間に強固な信頼関係を構築し、ガバナンス・コンプライアンス体制や危機管理体制の強化など組織強靱化に向けた改革を推進した。また、執行部内におけるコミュニケーションの改善に努めた。

以上のことから本項目については、「ほぼ計画どおりに進んでいる」と判定する。

- ⑦ 本学の歴史と実績に基づいて、オール日大として優れたグローバル人材を育成し社会に輩出するために、学長・教職員との信頼関係を築き、教育・研究・社会貢献のための環境整備に尽力しているか。

ニューカッスルキャンパスへの対応等、日本大学が有する資源を活用してグローバル化に取り組んだ。現時点では具体的な成果を挙げるまでには至っていないが、着実に前進している。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

- ⑧ 病院経営が法人の財政面での大きな経営課題であるとの認識に基づき、病院経営への改善への努力を続けているか。そして、その努力が、医療と病院運営を通じた社会貢献につながっているか。

病院担当の理事を選任し、改善に取り組んでおり、実績として収入拡大及びコスト削減の両面で大きな改善が見られた。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており、評価できる」と判定する。

- ⑨ 中期計画の実現に向けて努力をしているか。

現行の中期計画については、概ね目標に沿って進捗しており、進捗管理・見直しも適切に行われた。次期中期計画の具体的な方向性（経営戦略）等については未了であり、次期執行部にゆだねることとなった。

以上のことから本項目については、「ほぼ計画どおりに進んでいる」と判定する。

- ⑩ 学校法人日本大学が改正私学法の求める学校法人運営に関する規範に則って運営されるよう、努めているか。

改正私立学校法の施行に向け、寄附行為の見直しや内部統制の制度化と所管部署の新設、理事長を最高責任者とする推進体制の構築など、ガバナンス強化を積極的に進めた。また、役員及び教職員向けの研修を通じて全学的なコンプライアンス意識の向上に努め、規範に則った法人運営を強力に牽引した。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており，評価できる」と判定する。

- ⑪ 学校法人日本大学の業務執行が，今日の私立大学が順守すべきガバナンスコードから逸脱していないかを常に検証し，改善するための努力を続けているか。

信頼回復のための最優先課題として，私立大学ガバナンス・コードの遵守に全力で取り組み，日本大学改善改革推進会議によるモニタリング等を通じて，全学的なコンプライアンス意識の向上と業務執行の検証・改善を実施した。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており，評価できる」と判定する。

- ⑫ 日本大学の組織風土と経営の改革を抜本的に進めるために，理事長と教職員が相互に力強くサポートする体制を構築しているか。

組織風土の改革の必要性を十分認識し，執行部全体の意識統一に注力した。人事評価の適正化や公益通報制度の信頼性向上，積極的に学生及び教職員との交流を図る等，オール日大でのサポート体制構築に尽力した。

以上のことから本項目については、「満足できる成果が挙がっており，評価できる」と判定する。

〔総合評価〕

林理事長は，理事長に就任以来，相次いで生じた不祥事への対応，コンプライアンス並びにガバナンスの強化，組織風土改革など，本学の再生に向けて奔走した。学部や付属校を巡り，学生・生徒等，教職員等と語らい，コミュニケーションを深めた。大学経営においては，学長，副学長や業務執行理事とともに改善改革に取り組んだ。

また，校友会組織の改善に尽力するとともに，次期体制への引継ぎを念頭に将来構想経営企画プロジェクトを立ち上げ，本学の未来に向けた構想検討の基礎を構築した功績は高く評価できる。

現時点において全ての成果が目に見えているとまでは言えないが，走り抜けた4年間の多大なる苦勞に対し敬意を表したい。

以上を総括し，林真理子理事長の令和 7 年度の業績評価に関する総合評価は，「満足できる成果が挙がっており，評価できる」と判定する。

以 上